



北海道大学大学院医学研究院
眼科学教室 専攻医プログラム

Department of Ophthalmology Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine Hokkaido University
Training Program

Ophthalmology





北大眼科へようこそ!

石田 晋

北海道大学大学院医学研究院
眼科学教室 教授

前期研修を終わられた皆さん、あるいは専門医となるための研修先を探していただける先生、それぞれの夢や未来を描き探りながら、研修の場を検討中と思います。

長い歴史と伝統ある北海道大学大学院医学研究院眼科学教室は、北海道全域にわたる地域医療の中核であると同時に、世界に向けて最新の学術情報を発信し眼科学の発展に寄与する責務を担っています。

このため北大眼科では、学問の修得とともに患者さんの心に配慮できる良医を育成します。そして、医学研究の重要性をしっかりと理解する臨床医を育成し、その研究成果が医療レベルを向上させ、患者さんへの福音となるよう教室員一同で努力しております。さらに、次世代の教育者を育成するため、5年後10年後といった先を見据えた教育システムも充実させています。

眼は、外界の情報を取り入れるのに最も大切な感覚器です。その病気を治して患者さんとともに喜びを分かち合えるのが眼科学の一つの醍醐味です。しかしながらいまだに難治性の失明疾患も多く、その病態メカニズムの解明や新しい治療の開発はわれわれの急務でもあります。このようなやりがいのある仕事を北大眼科で一緒にしませんか？夢は大きいほど毎日が充実します。道内はもとより全国からやる気のある人材を募集しております。

診療・研究・教育の全てにおいて活気ある教室を一緒に作りましょう！

専攻医よ大志を抱け

新しい疾患単位、病態概念の確立を目指して、
新しい治療法(創薬・手術)の開発を目指して、

眼科学の歴史に自分の名を刻もう!



「所見を正しく取り、それを誤りなく理解して、適切な治療を行う」—この臨床医の基本に基づき、北大眼科では『バランスのとれた臨床経験を有する優れた眼科臨床医の育成』に向けて、専攻医の先生方がより良い研修を行える環境を整えています。北大病院で初期研修を受けられた方も、北大病院以外で初期研修を受けられた方も、出身大学や国籍に関係なく、分け隔てなく教育・指導を行います。

特徴01 実地能力を習得できる手術教育

最初は手術助手としての研修を重ね、それと同時に、ウェットラボ(豚眼を使用した手術練習)にて手術技術の習得を行い、眼科サージャンへのステップを重ねていきます。あわせて、手術動画を用いた専門医からの講義や、非常勤講師による実践セミナーなど、様々な勉強の場を設けています。北大眼科では年間2,000件に上る手術が行われています。ウェットラボによる技術習得後、指導医の監督下で、実際の患者さんの手術を執刀していきます。



コラム ~よくある質問~ その1

Q: 入局後の研修プログラムを教えてください。
A: 出身大学や国籍に関係なく、分け隔てなくのプログラムに則って、教育・指導が受けられます。

最初の1年間は北大で外来業務中心と病棟業務中心の半年交代のチームに分かれ、研修を行います。
▶ 外来では、上級医の指導のもとで外来患者さんを診察し、また専門外来の診療のサポートを行います。
▶ 病棟では、指導医と共に入院患者さんを診察し、多数の手術に助手として参加します。数ヶ月後からは執刀も始めます。

2年目からは関連病院で診断及び治療の経験を深め幅広くレベルアップをめざした研修を行います。

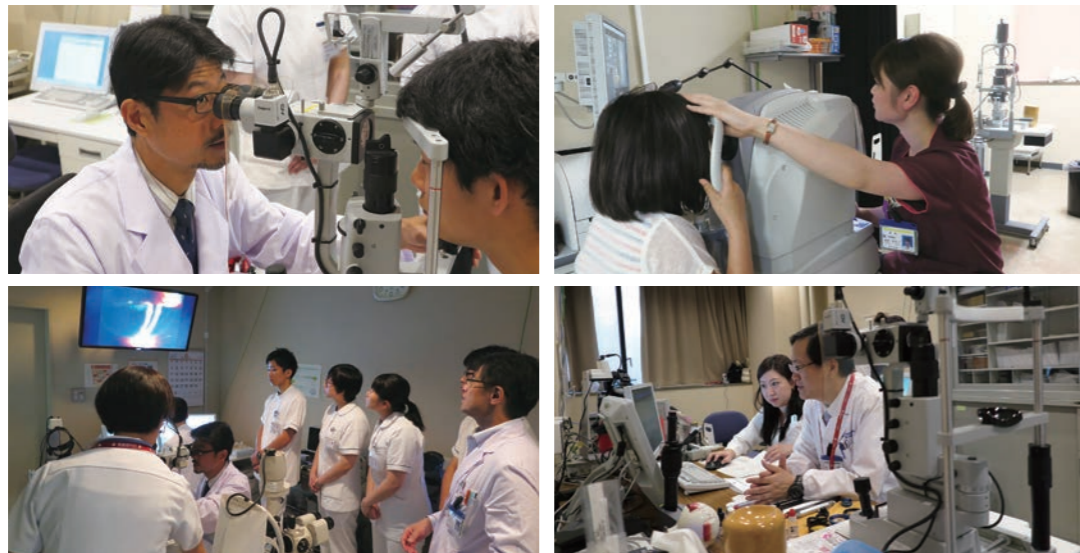
Q: 研修体制はどのようになっていますか？
A: 病棟では慣れるまで上級医より指導を受けます。主に4~8年目の専門分野を習得中の医師が指導にあたります。幅広い分野の症例を共有しながら、日常業務における様々な手技や知識を習得していきます。外来・病棟のどちらに配属されても上級医と共有する時間が豊富にありますので、わからないことをすぐに質問できる環境にあります。

Q: どのような関連病院がありますか？
A: 札幌を中心に各地方都市に以下の13の研修病院があります。
・網走厚生病院・大塚眼科病院・帯広協栄病院・KKR札幌医療センター・ささもと眼科クリニック・JCHO札幌北辰病院・砂川市立病院
・滝川市立病院・手稲深仁会病院・時計台記念病院・函館中央病院・北海道医療センター・北海道医療大学病院

特徴02 多岐にわたる専門外来

北大眼科には、14の専門外来があり、眼科医療を牽引する各分野のスペシャリストが教育にあたります。

網膜硝子体外来	責任医師: 齋藤 理幸(診療講師)	ぶどう膜炎外来	責任医師: 南場 研一(診療教授)
黄斑外来	責任医師: 安藤 亮(講師)	緑内障外来	責任医師: 木嶋 理紀(診療講師)
斜視・小児眼科外来	責任医師: 安藤 亮(講師)	眼腫瘍外来	責任医師: 加瀬 諭(講師)
角膜移植外来	責任医師: 田川 義晃(特任助教)	ドライアイ外来	責任医師: 田川 義晃(特任助教)
眼形成手術外来	責任医師: 水門 由佳(医員)	神経眼科外来	責任医師: 田川 義晃(特任助教)
涙道外来	責任医師: 水門 由佳(医員)	眼アレルギー外来	責任医師: 南場 研一(診療教授)
遺伝性網膜疾患外来	責任医師: 平岡 美紀(客員臨床准教授)	白内障外来	責任医師: 笹本 洋一(客員臨床教授)



コラム ~よくある質問~ その2

Q: 出産後育児をしながら仕事を続けることは可能でしょうか?
A: 北大眼科には、育児をしながら仕事を続けている先生もたくさんいます。“出産後も優秀な眼科医として活躍してほしい”というのが教室の基本方針ですので、教室全員でサポートする環境を整えています。



北大眼科の 育児支援 プログラム

妊娠中

体調に応じて、当直・外勤を免除あるいは減じることが可能

産休

産前6週
~産後8週

育休

希望に応じて
取得可能

フルタイムコース

●定時の始業・終業 ●当直の免除、
●欠勤可能日数の確保 ●子の看護休暇

時間短縮コース

北海道大学病院
「すくすく育成プラン」を利用



特徴03 充実した研究体制

北大眼科には「眼細胞生物学視覚科学研究室」があります。網膜細胞生物学(血管)、網膜細胞生物学(神経)、眼免疫学、眼腫瘍・病理学、角膜細胞生物学、眼循環代謝と6つの研究グループが存在し(下図参照)、各グループチーフと研究室スタッフが大学院生とともに各分野における最先端の研究に挑んでいます。また、大学院卒業生は博士号取得後に臨床や海外留学などさまざまな分野で活躍しております。

眼免疫学 グループ	網膜細胞生物学 (血管)グループ	眼腫瘍・病理学 グループ	角膜細胞生物学 グループ								
チーフ:北市 伸義	チーフ:野田 航介	チーフ:加瀬 諭	チーフ:田川 義晃								
網膜細胞生物学 (神経)グループ	眼循環代謝学 グループ	研究運営委員									
チーフ:新明 康弘	チーフ:齋藤 理幸	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>[教授]</td> <td>石田 晋</td> </tr> <tr> <td>[研究主任]</td> <td>村田美幸</td> </tr> <tr> <td>[研究副主任](臨床)</td> <td>田川義晃</td> </tr> <tr> <td>[研究副主任](基礎)</td> <td>董 震宇</td> </tr> </tbody> </table>		[教授]	石田 晋	[研究主任]	村田美幸	[研究副主任](臨床)	田川義晃	[研究副主任](基礎)	董 震宇
[教授]	石田 晋										
[研究主任]	村田美幸										
[研究副主任](臨床)	田川義晃										
[研究副主任](基礎)	董 震宇										

コラム ~よくある質問~ その3

Q: 大学院の一番良い進学時期は?

A: 大学院進学時期としては、ある程度臨床の研鑽を積んだ後に、進学することを推奨しています。

Q: 留学は入局後何年で行かせてもらえますか?

A: 特に決まりがあるわけではありませんが、まず眼科専門医資格の取得という必須の関門がありますので、受験資格が得られる最初の約4年間は国内で研修したほうが良いでしょう。その後ご自身の専門を決めて数年間キャリアを積み、あるいは大学院に進学して知識や技術を習得してから留学するのが一般的です。

卒後研修プログラム



特徴04 多彩なカンファレンス

北大眼科では、毎週実施される様々なカンファレンスによって、専門知識を習得することができます。また、関連病院移動後も専門医試験受けるための発表、執筆の準備を指導医と一緒に行うプログラムを用意しています。そのため、専門医試験の合格率100%（過去10年間）を維持しています。（全国平均78.59%）

リサーチカンファレンス

学会の予行を行います。科学的方面、論理的方面から内容を吟味するだけでなく、伝わりやすいスライド作成の指導や英語の添削も行なっています。また、翌週の手術予定患者についての検討会も行います。



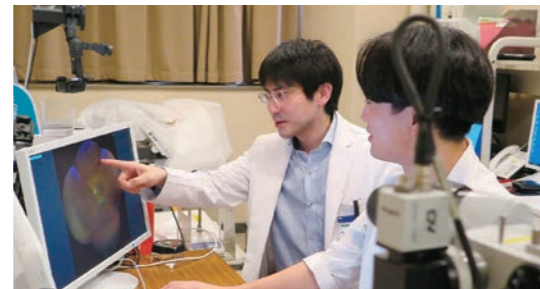
クリニカルカンファレンス

外来で悩んだ症例を提示し、議論し、学びを深めます。皆が参加しやすいよう、クイズ形式を取り入れるなどと工夫をしています。



イブニングクルグス

学生および研修医を対象に行っている講義です。専門分野ごとに、さまざまなテーマが設定され、年間50回程度実施しています。



初診チェック

毎日の初診患者について検査の計画の立て方や、診断の考え方、治療方針の決め方などを研修医に指導しています。

コラム
～よくある質問～
その4

Q：入局後将来の選択肢はありますか？
A：研究、臨床、開業など、どう選択するかは本人の意思が最も尊重されます。臨床重視であれば、関連病院への出張、大学病院での専門外来の診療で経験を積んでいくことができます。研究重視であれば大学院（3または4年）で博士号を取得し、その後国内・海外留学というコースがあります。眼科臨床経験4年後に眼科専門医認定試験を受ける資格が得られます。また数多くの同門の先生が開業されていますので参考になるとと思います。

Q：勤務時間は？何時頃に帰れますか？
A：朝は8時半までに出勤します。帰宅時間については、上記カンファレンスがある場合、各終了時間まで、他の日は分担した仕事が終われば帰宅できます。曜日にもよりますが、17～19時のことが多いです。ただし学会前の準備や、緊急手術、外勤、受け持ちの症例が多いなどの要素が重なると、帰宅が遅くなることもあります。

Q：休暇（夏休み、冬休み、単発の休み）は取れますか？
A：1年目から、1週間（月曜～日曜）×年2回の休暇を取ることができます。時期は他の先生と重ならないように話し合いで調整します。年始年末は分担制なので当直以外の日は休めます。その他、国内外の学会参加時、他施設見学の時はお休みが認められますが、仕事と関係のない単発の休みについては要相談となります。

興味のある方はぜひ一度、見学にお越しください。病棟診療、外来診療、手術見学、研究室見学、各カンファレンスを体験することができます。1日～数日の見学は随時受け付けております。また、午前中のみ数時間の見学も可能です。見学日時等につきましては調整致しますので、ご希望の方は下記までご連絡ください。

連絡先：安藤 亮
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学大学院医学研究院眼科学教室
☎ 011-706-5944
✉ ganka2@med.hokudai.ac.jp

眼科医局は南棟3階です。北13条門から入り、銀杏並木を通り、つきあたりを右折してください。右手に医学部正面玄関がありますので、受付にてお尋ねください。

眼科は眼と視覚を扱う専門性の高い科です。内科的にも外科的にもアプローチすることができます。手術がしたいのか、薬での治療がしたいのか、また研究がしたいのか迷っている方でも、眼に興味がありさえすれば何らかの道が開けてくるというユニークな分野であります。いわゆるマイナー外科の一つですが、人間にとって眼が見えるということの重要性を考えると、眼科の仕事の重み、やりがいを理解していただけたらと思います。

眼科は比較的独り立ちするのが早い科と考えられます。白内障の手術は、1年目から部分的に執刀、2-3年目になれば一人で最後まで執刀していただいています。この手術は顕微鏡下で行なう難しい手術です。それが早く執刀できるようになる理由は、年間3,000例という膨大な手術件数があることと、豚眼を用いた実習などの教育に力を注いでいるからであります。

北大眼科は、ぶどう膜炎や神経眼科といった内科的治療にて高名な教授が歴任されてきた、伝統のある教室です。さらに現教授の就任後は、外科的治療がさらに充実し、研究室も活気あるものとなり、どの方面にも強い教室として成長を続けています。その分、仕事は楽ではないかもしれませんが、ありふれた疾患から珍しい疾患まで、幅広く能率よく勉強することができる場所です。

今がチャンスです。
勢いのある教室で、
若いパワーを思う存分発揮させてみませんか？



共に眼科学の歴史に名を刻みましょう！

長谷 敬太郎

北海道大学大学院医学研究院眼科学教室 診療講師・教育主任



ISBN978-475810060-1

C3047

定価(本体priceless + 税)



9784758100601



1923047018007



北大眼科が誇る最強のグルメ教授
陳進輝先生が、発掘した名店が大集合!!
北大眼科ホームページにて絶賛公開中!
<https://eye.med.hokudai.ac.jp/>



アニュアルレポート

眼科で働く医師やメディカルスタッフの紹介や、業績データ、最新のトピックスのご案内などを掲載しています。

